

# 外国語科学習指導案

令和6年9月 日( ) 校時  
中学校2年 組名  
指導者  
ALT

## 1 単元名 Our Project 4 「夢の旅行」を企画しよう SUNSHINE ENGLISH COURSE 2

## 2 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第2学年）

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
ア	はっきりと話されれば、天気予報などについて、必要な情報を聞き取ることができること。	製品の取り扱いなどについて、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。	映画、テレビ番組などについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	映画、テレビ番組などについて、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	映画、テレビ番組などについて、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
イ	はっきりと話されれば、最も思い出に残っている学校行事などについて、話の概要を捉えることができる。	外国の中学生が紹介する学校生活のことなどについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	生徒の興味・関心の対象となることなどについて、事実や、自分の考え方持ちはなどについて整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えることができること。	生徒の興味・関心の対象となることなどについて、事実や、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	生徒の興味・関心の対象となることなどについて、事実や、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
ウ	はっきりと話されれば、エネルギー問題などについて、短い説明の要点を捉えることができる。	自然環境問題などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができる。	エネルギー問題などについて、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。	I C T の普及などについて、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	世界情勢や科学技術などについて、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

## 3 単元における指導構想

### ○教材観

本単元では、「夢の旅行」を企画し、写真を効果的に取り入れながらプレゼンテーションをし、そこでできることや世界の文化を伝えたりする表現に慣れ親しむ内容となっている。

言語材料としては、主に1学期の既習事項を使って、旅行先でしたいことやできること、自分の想いを伝える場面では、to不定詞、動名詞、You can～. I think that～.を、また友だちとの質疑応答などでコミュニケーションする場合は、Why～? You will～.を使って対話をより深める表現も含まれている。

したがって、それぞれの国の良さを知り、自分たちのおすすめの国について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す力を養うことができるものと考える。

#### ○生徒観

本学級の生徒はペアワークに積極的に取り組み、それぞれ自分の意見をもちながら授業に取り組むことができる。一方で全体発表となると自分の答えに自信がなく、消極的な態度となる。

そこで本単元ではペアとの協働的な活動により、より自分の伝えたいことを明確化し、自分の意見への自信が高まるような授業づくりを行う。またICTを活用することで発言以外の方法で、生徒同士の意見を繋げ、伝えたいことをわかりやすい表現を使って話す力を養いたい。

#### ○指導観

本単元は、外国の文化や特徴という生徒にとって興味関心があるであろう話題を扱っており、異文化を理解し自分の考えや感じたことを相手に伝える力を養うのに適した内容となっている。

そこで、言語活動として、スマールステップで発表の準備を行い、繰り返し意見交換することの積み重ねを通して「話すこと〔発表〕」に焦点を当てた指導を行う。

### 4 単元の目標

「夢の旅行」の魅力がクラスの友だちに伝わるように、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

### 5 単元の評価規準（「話すこと〔発表〕」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(知識) 「夢の旅行」を企画し、名所などを紹介するための方法、「夢の旅行」についての自分の気持ちや考えを伝え合うために必要となる語彙や表現などを理解している。	自分たちの「夢の旅行」の魅力がクラスの友だちに伝わるように、調べたことや自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	自分たちの「夢の旅行」の魅力がクラスの友だちに伝わるように、調べたことや自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。
(技能) 「夢の旅行」を企画し、名所などを紹介するために、自分の気持ちや考えを既習の言語材料の意味や働きの理解をもとに話す技能を身に付けている。		

### 6 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	評価			備考
		知	思	態	
1	■単元の目標を理解する。 ■行きたい場所ややりたいことについて、自分たちの考えを出し合う。 ①モデル・プレゼンテーションを聞いて、ペアで内容を確認し、ゴールのイメージをつかむ。 ②タブレットを使い、旅行先についての情報を調べ	を見届けて指導に活かす。	ねらいに即して生徒の活動状況	記録に残す評価は行わないが、	

	る。 ③表を用いて、大まかな構成について考える。			
2 本 時	■行きたい国やそこでやりたいこと、できる事について調べ、内容を整理する。 ①タブレットや辞書を使いながら、分からぬ単語や表現を調べる。 ②マッピングを用いて、自分の意見を整理する。 ③ペアでやり取りをし、感想や質問をもらう。	記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動状況を見届けて指導に活かす。		
3	■自分の言いたい内容の英文を考え、スライドを準備する。 ①前時で作成したマッピングを元に、発表原稿を作成する。 ②プレゼンに必要な写真を選び、スライドを準備する。 ③発表内容を確定させ、スピーチ練習する。			
4	■おすすめの国やそこで自分がやりたいことを表現する。 ①前時で作成した文章を元にプレゼンテーションをする。 ②振り返りを行い、自分ができたこと、できなかったことを明確にする。	○	○	○

## 7 本時の活動（第2時）

### (1) 目標

自分たちの「夢の旅行」についてALTやクラスの友だちに紹介するために、行きたい国やそこでやりたいこと、できる事について、簡単な語句や文を用いて内容を整理し話すことができる。

### (2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点		評価の場面	評価方法
		JTE	ALT		
1分	1 挨拶をする。	・簡単なやり取りをし、緊張をほぐす。			
5分	2 Small Talk を行う。	・自分のことを話しやすい雰囲気づくりに努める。			
2分	3 本時の目標について知る。	・本時の目標と流れを確認する。			
「夢の旅行」プランの魅力を伝えるために、内容を整理して話そう。					

10分	4 前時で見つけた旅行先で「楽しめること」を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容が明確になるよう、作成例を示す。</li> <li>・前時に確認をした留意点を確認する。</li> </ul>	・机間巡回を行い、困っている生徒を支援する。	
10分	5 特に気に入った企画を3つ選び、マッピングを用いて内容を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MetaMoJi ClassRoomによって他の生徒のアイディアを共有し、それぞれの記述内容の改善に繋げられるよう支援する。</li> </ul>		
10分	6 マッピングを元に、ペアでやりとりをし、感想や質問をもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を通して、助言や指導を行う。</li> </ul>		
7分	7 感想をもとに、再度文を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い発表になるよう、まとめさせる。</li> <li>・数名の生徒にコメントを聞き、全体で共有する。</li> </ul>		
5分	8 本時の振り返りを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の良かった点を伝える。</li> <li>・次時の学習内容を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の良かった点を伝える。</li> </ul>	

## 8 評価及び指導の例（「話すこと[発表]」）

「十分満足できる」と判断される状況 (a)	企画した「夢の旅行」の魅力がクラスの友達に伝わるように自分たちの行きたい国やそこでやりたいこと、勧めたいことなどについて自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を積極的に話している。
「おおむね満足できる」状況 (b) を実現するための具体的な指導	自分たちの行きたい国やそこでやりたいこと、勧めたいことなどについて自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話せるように、前時の内容や教科書本文を示すなどして支援する。
「努力を要する」状況 (c) と判断した生徒への事後指導	自分たちの行きたい国やそこでやりたいこと、勧めたいことなどについて自分の考えや気持ちなどを整理し、これまで学習してきた表現などを活用できるように個別支援を行い、繰り返し練習しながら「おおむね満足できる」(b) を達成できるようにする。